



クラブ 会報

CLUB BULLETIN (WEEKLY)

鶴岡ロータリークラブ

TSURUOKA ROTARY CLUB
D-253

創立 S 34.6.9
承認 S 34.6.27

例会場 鶴岡市馬場町 物産館3階ホール
例会日 毎週火曜日 12:30 ~ 13:30
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内
電話 0235 (2) 7711

会長 嶺岸光吉
幹事 佐藤村徳男
会報委員長 川小池海藤 西佐藤 正一

No., 1073 1980. 9. 9 (火) (晴) No., 11

ビジター紹介

大井康雄君 ポートレート一東京R.C
今野義介君 製材一温海R.C
早坂重雄君 生命保険一酒田東R.C
笹本森雄君 ホテル 松田善三郎君 製麵 鶴岡西R.C

会長報告

嶺岸光吉君

○黙禱。石原惇君が山形大学附属病院に入院療養中でしたが、9月7日朝6時55分他界されました。謹んで同君のご冥福をお祈りし、黙禱を捧げたいと思いません。

TAKE TIME TO SERVE

時間を捧げよう 奉仕のために

◎会員の皆様方にお願いがございます。ロータリーの例会は12時30分の点鐘で、食事をはさんで1時30分までの例会です。その間に会長・幹事報告、ゲスト及びビジターのスピーチ等、スケジュールが混んでいる場合は、食事のまだ終らぬうちに進行する場合もあるかと思います。僅かの限られた時間しかございませんので、商談やら、お話しのある方は、例会終了後に願います。出来るだけ2回目の点鐘にはご静聴願いたいと思います。

◎哀しいお知らせを申し上げます。会員の石原惇君が9月7日午前6時55分に他界されました。先般山形クラブ、山形南クラブに献血の依頼を要請したところ両クラブから心よく承諾していただきました。その温い友情も受けずに亡くなられ本当に残念でなりません。石原君はクラブに入会したのが、79年4月19日、丁度1年4ヶ月でございます。謹んでご冥福をお祈り致します。

今日私と幹事がお悔みを申し上げて参りました。葬儀は荘内神社総代会葬として神式をもって10日、午後1時から参集殿にて執り行われます。

◎9月7日(日)庄内分区のインターシティー・ゼネラル・フォーラムが温海クラブがホストで開催されました。当クラブからは、役員を含めて24名の参加をいただきました。分区内から180名程の参加を得て、有意義な勉強会でした。10時に点鐘、10時50分まで、会長歓迎の言葉、フォーラムリーダーの挨拶、来賓及び役員紹介、R・I会長の方針とフォーラムの意義、祝辞等を終えて、11時より四大奉仕部門のそれぞれのテーマで分科会にわかれて討議されたようでございます。各分科会の時間が70分という短い時間で充分討議する時間が一寸足りないように思いました。

当クラブからは、クラブ奉仕のモデレーターに中江亮君、職業奉仕部門のアドバイザーに高橋良士君、尚分科会には各委員長が出席致しましたので、後程ご報告願います。

14時から全体会で(ロータリーの原点を理解するために)アドバイザーの黒沢P.Gのお話があり、その後所感発表、次期開催地の発表(余目R.C)と決定15時15分閉会点鐘、懇親会に入りました。参加された会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

幹 事 報 告

佐 藤 衛 君

① 会 報 到 着

鹿児島西R.C、東京R.C、石巻R.C

② 平松P.GよりG.S.E英国派遣チームの報告書

③ 本荘東R.C、国際ロータリー加盟認証状伝達式のご案内

10月19日 日曜日

④ 元米山奨学生 蔡慶隆君が夏休みに帰国され、お土産に台湾名産のウーロン茶をいただき、今日皆さんに召し上がって頂いております。

委員会報告

◎国立鶴岡高専の公開講座に就いて

渡会正三君

鶴岡工業高等専門学校は、地域の産業・文化の発展に寄与することを目標に“地域との連帯を”スローガンに掲げています。このたび文部省等の支援のもとに「庄内産業の発展計画」の公開講座を開設することになりました。

ついては、公開講座要項が下記のとおり決まりました。どなたでも受講できますから、多数のご参加をお待ちしております。

講座開設期間及び時間 9月20日(土)～12月13日(土)の毎週土曜日
午後2時～4時

開設の場所 鶴岡工業高等専門学校

講習料 1,750円

申込み締切り 9月16日(火)

講座の日程と内容

期 日	講 座 内 容	講 師 名
9月20日	庄内の現状と将来	鶴岡商工会議所 会 頭 風間慶三氏
9月27日	地方の時代	鶴岡高専 教授 結城清吾氏
10月4日	先端技術産業と庄内	山形日本電気(株) 鶴岡工場長 佐々木市右門氏
10月18日	鶴岡工業の動向	鶴岡市産業部長 阿部禧郎氏
10月25日	庄内工業の技術水準	山形県工業センター 庄内試験場長 坂本道夫氏
11月1日	庄内伝統産業の衰退要因	鶴岡高専 教授 斎藤正一氏
11月8日	庄内工業化の条件	庄内プレス工業(株) 鶴岡工場長 樋口晃氏
11月15日	庄内工業化とコンピューター	鶴岡高専 教授 菅伊兵衛氏
11月29日	田園都市と産業	鶴岡高専 教授 結城清吾氏
12月6日	山形県における庄内発展のビジョン	山形県庄内支庁長 菊地卓郎氏
12月13日	21世紀の庄内	鶴岡高専 教授 結城清吾氏

◎ロータリー情報委員会

情報委員長 鈴木 弥一郎君

この度ロータリー情報委員会として今年度活動の第一弾として早坂バストガバナーに大変お忙しい所を懇請申し上げまして、皆さんのお手許にお上げ致しましたプリントを作って戴きました。従いましてロータリーをもっとよく理解して戴く為にわかり易くエキスをしばってまとめてありまして、ロータリーとは何かと云う表題で第1篇はロータリーの歴史について。第2篇は職業奉仕の理念について。第3篇は社会奉仕の歩み。第4篇は国際奉仕活動について述べられて居りまして貴重なロータリー活動の資料が出来上りましたので、次々に発表させて戴きます。

何卒新会員の方々には勿論の事、会員の皆さんにもロータリーの原点に戻りましてご熟読の上、綴って戴きロータリークラブ活動の糧として戴くようお願い致します。終わりに早坂バストガバナー並びにクラブ奉仕委員長さんのご労苦に厚くお礼申し上げます。

◎1980～81年度 庄内分区 I.G.F 第1分科会に関する報告

クラブ奉仕部門

クラブ奉仕委員長 中江 亮君

第1分科会のフォーラム参加者は43名で、各クラブ会員を混ぜ合わせた5テーブル編成でありましたが、当分区としては初めての BUZZ SESSION 方式に依る討議の方式を採用しました。

この方式の意味は蜂のようにブンブンざわめき乍ら会議をやるのであります。従いまして意見はドンドン出して頂くが必ずしも結論を出さなくても良いそうです。

たまたま私がモデレーターを言いつけられたのですが、テーマとして

- ① クラブ会員の融和をはかるために
- ② 広報活動とロータリー情報

を設定しましたところ、各分科会の持ち時間が70分しかなかったため両者をからませた形で進めました。

テーマを設定しました主旨を簡単に申し上げますが、時間の関係上次のように要約させていただきます。

- ◎即ち我々が入会に際して十分にロータリーに関する知識を与えられなかった為に、入会してから初志とは相容れない不満や失望を抱き、クラブの諸活動に理解を示さず、興味を失いルールを煩わしく思うようになって、クラブの中で不協和音が生じ、互を疎外する空気がクラブ内に拡散されて秩序が乱れる事がありますが、この原因はとりも直さずロータリーの奉仕が超我のものである事を理解される前に一般的な社会通念をその儘クラブ内に持ちこまれる為であります。

従いまして我々がロータリーの知識やルールを身につけるなら、すべての会員はクラブ内では平等である事に自信を持ち、相手を尊敬する心を持つならば年

代の相異や社会上の自分の相異から来るギャップは自然に克服される筈であります。

それ故に我々がクラブの中に於いて考えるべきことは、すべての奉仕活動の前にクラブ会員相互の和を計ることが優先されなくてはいけないと言う事であります。

- ◎次に広報のことでありますが、我々は今迄殆どマスコミに頼るだけでありましたが、實際上これには限界があり、事業発表の記事だけではロータリーとは何をする団体であるのかの根本的なイメージは地域の方々には殆ど無縁でありました。

それ故に私としましてはクラブによる自力広報のアイディアを皆で考えるためにこのテーマを抱き合わせ、情報の知識の効用をこの中に折り込んだのであります。

- ◎この討議に於て出された意見を総合して申し上げます
 - 入会してからトラブルのあった会員は殆どが入会する時にロータリーの知識を与えられず、いい加減の言い方で勧誘された。
 - 情報委員長は会長経験者を充て、ファイヤー・サイド・ミーティング方式に依る教育をするのが多かった。
 - 入会后早い中に情報の研修を一定期間義務付けて修了証書を交付する。
 - 集団退会が意外と多いが、その原因は殆どが指導不足であり、抱擁力に欠け、きびしさが無いからである。
 - 明治・大正・昭和の年代から来るギャップは殆どないが、新旧間に問題が多い。即ち旧い会員が大きくなって新しい会員が小さく引っ込んで例が多い。
 - 温海クラブは山間部が多く会員増強で非常に苦心されておられるが、その一助として婦人会や部落会長、交通安全協会の方々を招いてロータリーをP.Rしている。
 - 八幡クラブでは広報の一環として交通安全協会の主催に依るパレードにロータリークラブの宣伝カーを出して全員行進に参加し、先頭にロータリーのプラカードを持った、毛色の変った交換学生を歩かせて大変好評を博した。
 - 鶴岡クラブは広報と増強のためにロータリーの歴史、職業、社会、国際の4部からなる解説パンフレットを作り、ロータリーの友、その他の資料と共に会員候補者やその他の地域の方に贈呈する計画を実施中。

◎職業奉仕部門

職業奉仕委員長 佐藤元伸君

I . G . F 昭和55年9月7日 於 温海グランドホテル

第II分科会 職業奉仕部門結果報告

モデレーター 八木欽一君 (立川R.C)

アドバイザー 伊藤春夫君

特別講話 池田好雄君 (立川R.C)

テ　ー　マ　常に身についた職業奉仕とは (常住座臥の奉仕活動)

最初に池田好雄氏による常住座臥の奉仕活動についての特別講話があり、常住座臥とは仏教用語では行住座臥というが、その意味は人間の動から静までを表わし、4意義とも言われ、生活の形を整える事により、内容も整えるようにする事によって職業が身につく奉仕への可能性が出てくる。

又起きている間はもちろん、寝ている時も1日24時間奉仕の気持を持ち続ける事が必要であるとの事でした。

バズセッション方式の会議で4つのテーブルを分れて話し合いに入りました。私のテーブルは第4テーブル、テーブルマスターは佐久間光男氏(酒田)になりました。

第1部 職業奉仕は団体で可能かというテーマで各テーブル毎に発表があり、結論的には団体ではなく、個人を通して行なうのが正しいのではないかという意見が圧倒的でした。

第2部 常に身についた職業奉仕とは、について各クラブ毎に発表がありました。タイトルが抽象的になって、特に印象に残る意見がなく、又時間的に短かった為か本論に入る前で会議が終わったというのが分科会での私の印象です。

◎社会奉仕部門

社会奉仕委員長 市川輝雄君

「雨の日のフォーラムは皆さんの気が散らなくてさぞかし実り多いI.G.Fとなることでしょう。」と黒沢ガパナー代理のユーモアたっぷりの挨拶の通り、雨にけぶる温海岳を一日中、窓外に眺めながらの勉強会でした。

社会奉仕部門の

モデレーターは酒田クラブの伊藤三郎君

アドバイザーは当クラブの高橋良士君

テーマは“地域に密着した社会奉仕とは”でした。

初めに伊藤モデレーターが、「社会奉仕はロータリーの柱だと云われているが各地域に於いて、その存在意義が他の奉仕クラブ程認識されていないうらみがある。少ない予算の中で如何に地域社会の為になり、個々の奉仕の精神の向上に役立つ業績を挙げられるか話し合いたい」とテーマの主旨を述べ討論が始められました。

バズセッション形式のフォーラムで全員が討論に参加をと、当部門参加者40名が4テーブルに分れ意見を交換し合いました。

バズセッションとは蜂の群れ飛ぶような討論方法だそうですが、各テーブル共15分間の短い制限時間のため、あわただしくも活発な発言で本当に蜂の巣をつついたようでありました。

その後、各テーブル長が意見をとりまとめて発表しましたが、さすがベテラ

ン揃いの参加者が多く、的はずれな発言はなく、ロータリーの本質をわきまえたものばかりで、数年前に参加した時のフォーラムに比し、分区内各クラブの質がかなり向上しているように見受けられました。

数多くの事例と反省など発表され大いに勉強になりました。

最後のしめくりとして高橋アドバイザーより

- 適確有効な社会奉仕を行うにはまず地域社会のニーズを把握すること。それには例会を借りてパネルディスカッションなどを行なうのも一方法である。
- ロータリーの社会奉仕とは、個々の奉仕の実習である。まず公德心の高揚から。
- 各奉仕団体ボランティアグループ観光協会、マスコミ、J.C、青年団などとの合同ジョイントミーティングなども有効である。
- 環境公害問題に口火を切るのも仕事の一つ、自然開発と保護との調和を図りながら事業を行なう。
- 地域に徒らにロータリーの残骸を残すのでは困る、アフターケアの問題など総括的なアドバイスがあった。

ホスト温海クラブの綿密な準備と努力によりスムーズに進行し、又、充実したフォーラムとなった。

欲を云えば歓迎公式行事、或いは黒沢バスターガバナーの講話を多少短縮しても、肝心の分科会、特に今回の目玉のバズセッションが15分しかないので切角の魂を入れる時間の足りなかったような気がして残念でした。

◎国際奉仕部門

国際奉仕委員長 迎田 稔君

モデレーター 八幡クラブ 村上 勘之輔氏
アドバイザー 遊佐クラブ 土門 敏雄氏
テーマ 交換学生の交流による国際親善について

交換学生受け入れについての問題点が殆んどでお土産の与え過ぎ、それに伴う帰国時の荷物の増加、送迎のこと、ホストファミリーの待遇、家庭内での問題、これは学生をお客にしない為に、家族の中でどう扱うのか仲々解決の困難な問題だろうと思います。

予算の点も出ましたが、当クラブでは問題ない事と思います。帰国後に連絡が無い事は国民性の相違を考慮に入れてもどこのクラブでも不満の多い点でした。

嶺岸会長のご意見ですが、交換学生を通じての国際親善なのだから学生の派遣、受け入れだけに済ませないで、クラブ対クラブとの接触をもっと強めてお互いの交流を強める事が大切なのではないかとの事です。

これは本当に意味のある事で、当クラブでも交換学生を通じての連絡をもっと密にしなければと考えます。

話し合いの内容は学生の扱い方が、殆んどで国際親善までは入れませんでし

たが、若い学生の国際的な交流と云う事は長い目で見れば、非常に有意義な事
 と思います。

色々の問題点を乗り越えて国際的なつながりのあるロータリー精神の向上に
 役立てたいと思います。

SMILE BOX

鈴木 弥一郎君 友有り、遠方から来たる、また楽しからずや。
 東京クラブより大井君がメーク。

出席報告

本 日 の 出 席	会 員 数	69名	欠 席 者	秋野君、藤川君、早坂(徳)君、今野君、板垣 (広)君、三浦君、本山君、諸橋君、中野君、 高橋(耕)君、玉城君、丹下君、吉野君
	出 席 数	56名		
	出 席 率	81.16%		

前 回 の 出 席	前回出席率	84.06%	メ ー ク ア ッ プ	板垣(広君)、佐藤(元)君一温海R・C 斎藤(栄)君一立川R・C 藤川君、飯白君、今野君、野村君、富樫君 一鶴岡西R・C
	修正出席数	66名		
	確定出席率	95.65%		